

学力向上推進地域事業 福山市立城南中学校区 研究のまとめ (南小学校, 川口小学校, 多治米小学校, 川口東小学校, 城南中学校)

1 中学校区でめざしたもの

(1) 育成する力

○課題発見する力 ○対話する力 ○認める態度

(2) 子ども像

○自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒
○様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒

2 取組テーマ

子ども主体の学びづくり実現のために、子ども自身が「考え、決める、選ぶ」場を設定する

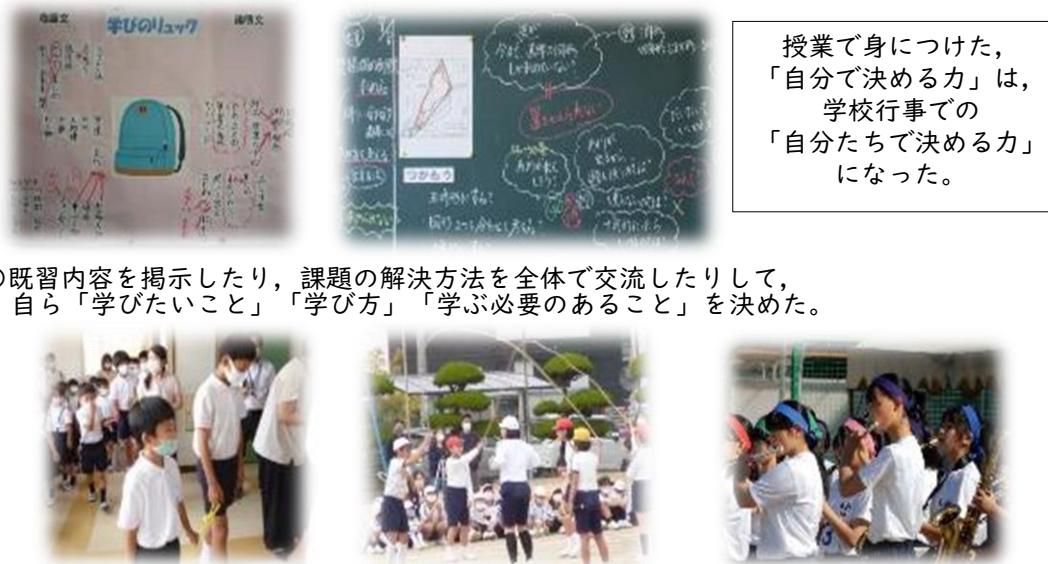
3 実践例

(1) 自分が考える



○自分の考えを伝えたり、仲間の意見と照らし合わせたりするために、伝え方を考えた。
○共通の疑問点を持つ仲間と協力するために、様々な場所で対話した。

(2) 自分が決める



授業で身につけた、「自分で決める力」は、学校行事での「自分たちで決める力」になった。

○既習内容を掲示したり、課題の解決方法を全体で交流したりして、自ら「学びたいこと」「学び方」「学ぶ必要のあること」を決めた。

○密を避けて行える行事内容を、児童生徒が主体的に意見を出し合って決めた。手をつなぐ代わりにリボンを使った新しい入学式や、みんなでできる運動会、体育祭での演奏会など一人一人が輝ける行事を企画した。

(3) 自分が選ぶ



○SDGsや地域の課題から取組内容を自分たちで選び、調べ、まとめた。
○中学校区オープンスクールでは、児童自らが興味を持ち、学びたい場を選んで動いた。
○中学校区では週に1時間、自分を見つめ、自分が探究したいことを選んで学習した。

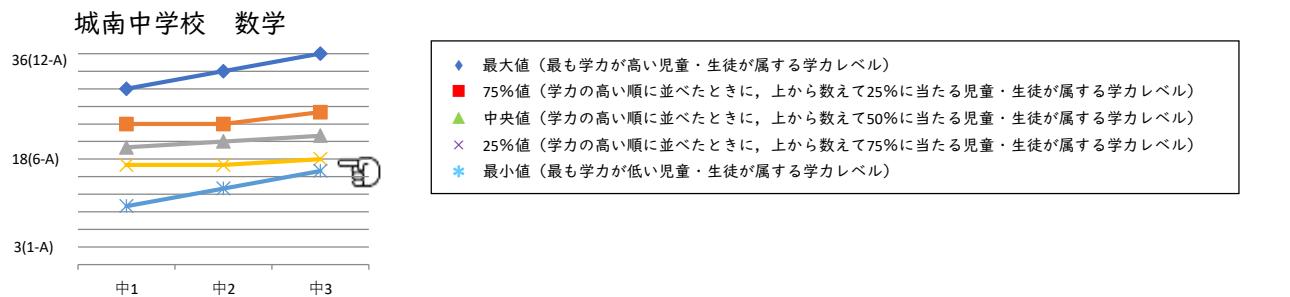
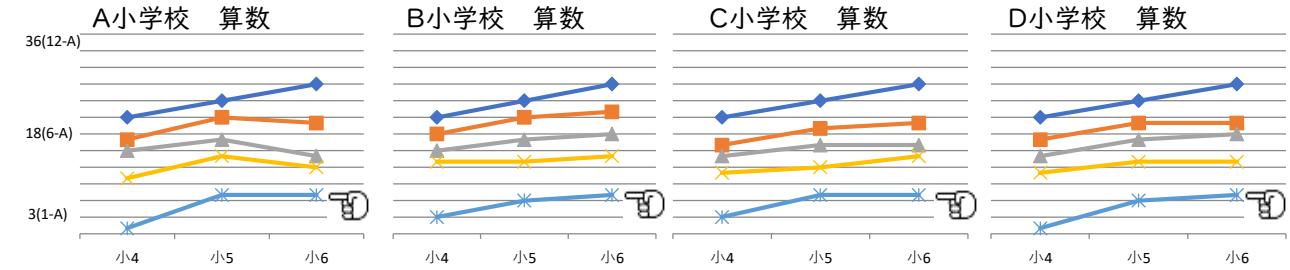
4 成果と課題

(1) 「学力向上アンケート」より (学力向上推進事業取組前(平成28年度)との比較)

		小学校			中学校		
		取組前	R2年度	差	取組前	R2年度	差
児童生徒	友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている。	87.4%	90.5%	+3.1	76.8%	87.9%	+11.1
	解決しようとする課題について「たぶんこうではないか」と予想している。	88.4%	92.4%	+4.0	75.9%	85.0%	+9.1
	普段の生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を使っている。	89.0%	87.1%	-1.9	75.1%	86.2%	+11.1
教員	児童生徒が課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材したりするような指導を工夫した。	59.7%	72.6%	+12.9	45.9%	59.4%	+13.5
	児童生徒が、解決しようとする課題について予想するような指導を工夫した。	93.2%	98.4%	+5.2	86.5%	90.6%	+4.1
	児童生徒が、日常生活や学習の中で、これまでに学習した内容や学習の進め方を活用するような指導を工夫した。	87.9%	94.5%	+6.6	83.8%	93.8%	+10.0

(2) 「学力の伸びを把握する調査」より (※1)

○ 5段階別学力の伸びの状況



(※1) 本市では埼玉県で2015年度(平成27年度)から開始された「学力の伸びを把握する調査」を先行的に2校区で実施している。本調査は小学校4年生から中学校3年生まで経年で一一人の学力の伸びを把握することができる。出題される全ての問題に同一尺度で難易度が設定されている。

そのデータをもとに、児童生徒は自分をつけるべき力を把握することができ、教員は学力向上に効果的な指導方法を明確にし、学級経営や授業方針を立てることができる。

○ 支援対象児童生徒への取組

白い部分が、学力の調査範囲
赤いラインが、個人の学力のレベルを表している。

あなたの学力レベルは、「レベル7」まで伸びました。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3
高 ↑ 学力 ↓ 低	レベル12					
	レベル11					
	レベル10					
	レベル9					
	レベル8					
	レベル7					■
	レベル6					
	レベル5				■	
	レベル4			■		
	レベル3					
	レベル2					
	レベル1					



< 学力に課題のある児童生徒への取組 >

・日々の学びの姿から個別の指導計画を立てている。
・苦手な領域の補充学習を行っている。

< 家庭学習への取組 >

・家庭学習用に、個別にプリントを作成する。
・自分だけの力で学習できるように、理解度に応じた課題を設定する。
・いつでも見返すことができるよう、家庭学習用ファイルを作成させる。